

## 推 薦 理 由

推薦者氏名	機械系主任	井上剛良	融合理工学系主任	高田潤一
	システム制御系主任	倉林大輔	建築学系主任	竹内 徹
	経営工学系主任	大和毅彦	土木・環境工学系主任	廣瀬壯一
			イノベーション科学系主任	比嘉邦彦

学長候補者の氏名 : 岸本喜久雄

岸本喜久雄氏（以下、候補者と表記）は、昭和 52 年に助手として就任して以来、40 年間に亘って本学における教育研究に従事し、本学の発展に大きく貢献しています。学内運営に関しては、副工学部長を 3 代の工学部長・工学系長の下に担当するとともに、副学長（教育運営）職を経て、工学系長・工学部長を 2 期担当し、現在は環境・社会理工学院長の職にあります。このような管理的職務を長期間に亘って任されたことは、多くの教員が候補者の誠実さと指導力に期待したことによるといえます。大学が大きな変化を求められる時代にあって、候補者の豊富な経験と高い見識に基づいた柔軟で先進性のある組織運営は構成員に安心感を与えるとともに本学が目指す方向に進んでいるとの期待感も与えています。候補者は、大学重点化の際は全学委員会の幹事役として、法人化に際しては全学準備部会 WG 委員として、また、今回の教育改革では基本構想会議委員として、3 回の大学改革の渦中で多くの教職員の方と一緒に仕事をさせて貰ったことが非常に良い経験となったと語っていますが、本学がさらに発展をしていくためには、このような貴重な経験をされ、実績とともに優れたリーダーシップとマネジメント能力を有する候補者が本学として必要であります。

学術の面では、候補者は材料力学分野において我が国を代表する研究者であるといえます。その研究内容は、破壊力学、計算力学、実験力学、界面力学など多岐に亘っており、それらの研究成果に対して国内外から高い評価を得ています。数々の招待講演を行うとともに、日本機械学会論文賞をはじめ数々の賞を受賞しています。また、海外の研究者や企業の研究者との共著論文も多く、候補者の飾らない性格もあって国内外に広範な人的ネットワークを持っています。学会講演会では、候補者は好奇心が旺盛で他の研究者の研究発表に常に熱心に耳を傾けています。また、国際会議の議長、事務局長、国際雑誌の編集委員等を多く歴任するとともに、国際理論応用力学連合の日本代表総会委員を務めるなど、国際的な学術活動にも豊富な経験と実績を持っています。日米の若手研究者のシンポジウムの開催に尽力するなど若手研究者の育成にも大きな貢献をされています。

候補者は、学会の組織運営においても指導的な役割を果たしています。例えば、日本機械学会においては材料力学部門長、理事、副会長、会長を、自動車技術会に

においては理事、技術会議議長を、また、日本材料学会においては破壊力学部門委員会委員長、関東支部長、理事などを歴任するとともに、日本機械学会と自動車技術会でフェローに就任されています。また、米国機械学会のフェローにも就任されていることは海外からも高く評価されていることを示すものです。学会においても多くの改革が必要であることから、候補者は学会運営にも指導的役割を果たしていますが、権威主義でない人となりは、学会のメンバーや職員からも慕われています。

日本学術会議では会員として機械工学委員会委員長を務めた後、現在は連携会員として理論応用力学分野を中心に、また、日本工学会の理事、日本工学アカデミーの会員として、学术界や産業界のリーダーとともに学術の普及・発展に幅広く取り組まれています。このようなことから候補者は国内外を問わず、多様な関係者と協力体制を構築できる調整力と行動力を有しているといえます。

文部科学省関係では科学技術・学術審議会の委員として基礎基盤研究部会の部会長、技術士分科会の部会長代理などや、国土交通省関係では交通政策審議会ならびに社会資本審議会の臨時委員や安全基準検討委員会委員などを務められるなど、数多くの外部委員に就任され、候補者は、我が国の科学技術の行政面においても指導的役割を果たされています。また、日本学術振興会の科学研究費の評価委員、大学改革支援・学位授与機構や大学基準協会の評価委員や日本国際賞をはじめとする各種の賞の選考委員、他大学の外部評価委員など、様々な評価委員に就任するとともに、その中の多くの委員会で委員長を務めています。公平で公正な審査が求められる委員会の運営を任されていることは、候補者が人格的に高潔で学識に優れていることの証左であるといえます。

教育や人材育成の面では、学内においては産学協同による実践的PBL教育プログラムや世界展開力強化事業などの教育プロジェクトを企画・立案し、実行してきた実績があるとともに、国際高等教育達成度評価プロジェクト(OECD-AHELO)においては我が国の大学グループの代表を務め、我が国の高等教育にとって大きな成果をもたらしました。また、日本技術者教育認定機構の副会長やAPECエンジニアリング審査委員会等の委員長を歴任しています。さらに、エンジニアリング教育や技術者資格の国際通用性や国際的相互認証に関わる国際エンジニアリング連合(IEA)に我が国を代表するメンバーとして参加するとともに、我が国のエンジニアリング教育や技術士制度の改革にも尽力しています。また、蔵前技術士会の顧問を務めるなど、同窓会組織とも候補者は良好な関係を築いております。

このように、候補者は、人格が高潔で学識に優れており、本学のさらなる発展と魅力ある大学創りの実現を託すに相応しい創造力、国際性、リーダーシップとコミュニケーション力、実行力を有しており、ここに我々は東京工業大学の学長として最適任の人物であると確信し、岸本喜久雄氏を学長候補者として推薦申し上げます。

国立大学法人東京工業大学学長候補者の所信

学長候補者の氏名	岸本喜久雄 (自署)
----------	------------

**1. 大学の大競争時代を生き抜く**

大学を取り巻く環境が大きく変化しており、世界の大学が生き残りをかけた熾烈な競争をしています。伝統のある大学はさらに力を蓄え、新興国は国の発展のために高等教育に大きな投資をしています。大学に求められる役割も学問の府から、社会への貢献が強く求められるようになっていきます。我が国においては、少子化が急速に進んでおり大学淘汰の時代が来ると叫ばれています。大学教育のあり方もオンライン教育の普及とともにキャンパス内での学習機会が減少しそうなことから、必要な教員数も僅かで良くなり、従来型の大学は縮小に向かうのではとも言われています。東工大がこのような大学の大競争時代を生き抜き、国内外から高く評価され、期待される大学としてその使命を果たしていくためには、大学の本来の役割は何か、その役割を果たすにはどのような体制が適切なのか、さらには、その役割を果たすためにはどのような行動が最善なのか、などについて大学全体で考え、進むべき方向を見定め、目標を共有して力を合わせて前進することが必要であると考えます。学長のリーダーシップとは、その実現であると考えます。そのために、以下の5つのことを所信（心がけること）とします。

**2. 所信（心がけること）**

**(1) 東工大の伝統を大切にする**

東工大は世界に誇れる伝統を持った大学です。1881年に東京職工学校として誕生して以来130年余りを経て我が国を代表する理工系総合大学として発展しています。しかし、その発展は必ずしも平坦なものではなかったと大学史には記録されています。東工大には幾多の困難を大学のメンバーが一体となって乗り越えて来たという力強い伝統があります。大学として大事な決断をすべき時は、このような東工大の原点に照らして判断することが重要であると考えます。

**(2) 東工大の価値を大切にする**

東工大は東工大ならではの価値を持っています。素晴らしい研究や教育が日々行われています。その価値をさらに高めて、世界をリードしていくためには、研究の在り方について様々な努力や工夫が求められます。世界に開かれた研究バブの構築や次世代を担う若手研究者の育成など、限られた資源の中で実現して行かなければなりません。教育についても然りです。価値観の共有こそ

---

がガバナンスの根幹であり、東工大の方針の決定や資源配分などの大学運営が透明性を持って健全に行われていることが不可欠であると考えます。

### **(3) 東工大に集う人々を大切にす**

東工大には様々の人が集います。言うまでもなく学生と教員が主役ですが、事務職員や技術職員の方々、また、それを支えて下さる方々も大切な大学の関係者です。交換留学生、客員教員など国内外の大学から短期間滞在される方々も大切な仲間です。東工大に集う様々な人たちが、充実した時間を過ごすためには、居心地の良いキャンパスを整備することは肝要ですが、主役である学生と教員が活気に満ち溢れた状態に常にあるように大学の体制を構築し、進化させていくことが必要であると考えます。

### **(4) 東工大のサポーターを大切にす**

東工大が健全な姿で発展していくためには良きサポーターを得ることが必要です。学生のご家族の皆様、同窓生の方々にはこれまでも増してサポートをしていただければ嬉しく思います。東工大に期待して下さる企業、官公庁、国内外の大学や研究機関も心強いサポーターです。また、様々の形で東工大のためにご助言、お叱りを下さる外部評価委員やアドバイザリーボードの方々も大切なサポーターです。これらの方々から信頼され、好意的な支援を得るためには、東工大の貢献が期待に添うものであることはもちろんですが、その活動を世の中に向かって分かり易く丁寧発信することが重要であると考えます。

### **(5) 東工大の未来を大切にす**

東工大の未来は、将来に東工大を舞台として活躍する人達のものです。現在ある東工大の姿は先人の努力の賜です。社会環境や経済環境の変化が加速している現在では、将来を予測することが極めて困難になっています。不確実性の時代においては、確固たる信念も大切ですが、それにも増して柔軟な意思決定が求められています。意思決定の拠り所を東工大の 10 年後、20 年後、さらにはその先の未来に置いて、目先のことにあまり拘泥することなく理想の東工大の姿を描いて、そこに向かって進んでいくことが重要であると考えます。

## **3. 世界の TokyoTech を目指す**

東工大は、創立 150 周年を迎える 2030 年を「世界トップ 10 に入るリサーチユニバーシティ」の実現を目指す節目の年と位置付けています。この 2030 年に実現したい東工大像を全学的なワークショップにより探ることが行われました。この東工大としての初めての試みを通じて、世代や職位を超えて東工大への思いに共通しているものがあることが確認できたように思います。「ちがう未来を、見つめていく」Sprit で、「尖らせる」「共鳴する」「実装する」を Action することを通じて東工大が世界の TokyoTech になろうという「志」です。

東工大の輝かしい未来を皆様と一緒に創るために全力を尽くす所存です。

---

## 別紙様式3 (第8条第3項関係)

## 履 歴 書

(フリガナ) 氏 名	(キシモト キクオ) 岸本 喜久雄	Ⓐ・女
年 齢	64 歳	
現 職	環境・社会理工学院長 (平成 28 年 4 月より)	
学 位 ・ 称 号	工学博士 (東京工業大学) (昭和 57 年 1 月)	
学 歴		
年 月	東京工業大学工学部機械物理工学科卒業	
昭和 50 年 3 月	東京工業大学理工学研究科機械物理工学専攻修士課程修了	
昭和 52 年 3 月		
職 歴		
年 月	東京工業大学工学部機械物理工学科助手	
昭和 52 年 4 月	英国ケンブリッジ大学客員研究員 (～昭和 63 年 1 月)	
昭和 62 年 3 月	同 工学部一般材料力学講座助教授	
昭和 64 年 1 月	同 工学部機械知能システム学科助教授 (改組のため)	
平成 5 年 4 月	同 工学部機械知能システム学科教授	
平成 7 年 9 月	同 大学院理工学研究科機械物理工学専攻教授 (重点化のため)	
平成 12 年 4 月	同 大学院理工学研究科機械制御システム専攻教授	
平成 13 年 10 月	同 評議員 兼務 (～平成 19 年 3 月)	
平成 17 年 4 月	同 応用セラミックス研究所附属セキュアマテリアル研究センター衝撃破壊力学協力研究部門兼担 (～平成 28 年 3 月)	
平成 18 年 4 月	同 大学院理工学研究科機械物理工学専攻教授	
平成 18 年 10 月	同 副学長 (教育運営担当) 兼務 (～平成 24 年 9 月)	
平成 24 年 4 月	同 大学院理工学研究科工学系長・工学部長 兼務 (～現在)	
平成 24 年 10 月	同 大学院イノベーションマネジメント研究科技術経営専攻兼担 (～平成 28 年 3 月)	
平成 27 年 4 月	同 環境・社会理工学院教授 (改組のため)	
平成 28 年 4 月	同 環境・社会理工学院長 兼務 (～現在)	
平成 28 年 4 月		

大学・企業等の組織運営への参画状況

平成 16 年 4 月 東京工業大学工学部副工学部長（統括）（～平成 22 年 3 月）  
 平成 17 年 4 月 同 評議員（～平成 19 年 3 月）  
 平成 22 年 4 月 同 大学院理工学研究科工学系副学系長（教育研究担当）（～平成 24 年 3 月）  
 平成 23 年 10 月 同 理事・副学長（教育・国際担当）特別補佐（～平成 24 年 3 月）  
 平成 24 年 4 月 同 副学長（教育運営担当）（～平成 24 年 9 月）  
 平成 24 年 10 月 同 大学院理工学研究科工学系長・工学部長 兼務（～現在）  
 平成 28 年 4 月 同 環境・社会理工学院長（～現在）

社会及び学界における活動状況

1. 社会貢献（国・地方公共団体の審議会等の委員・各種団体における役職等を年次順に列記）  
 平成 13 年（社）日本技術士会技術士試験委員（～平成 19 年）  
 平成 13 年 国土交通省 安全規制検討会（～平成 16 年）  
 平成 16 年 文部科学省 科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会）（～平成 18 年）  
 平成 16 年 国土交通省 安全基準検討会（～平成 23 年）  
 平成 17 年 国土交通省 社会資本整備審議会臨時委員（～平成 27 年）  
 平成 17 年 国土交通省 交通政策審議会臨時委員（～平成 27 年）  
 平成 17 年 国土交通省 技術会議委員（～平成 18 年）  
 平成 17 年（独）科学技術振興機構 技術者継続的能力開発・再教育事業推進委員会委員（～平成 25 年）  
 平成 17 年（社）日本技術士会 技術士試験に関わる問題等検討チームメンバー（～現在）  
 平成 18 年 日本学術会議 連携会員（～平成 20 年）  
 平成 18 年 文部科学省 私立大学等研究設備等補助金に係わる選定委員（～平成 24 年）  
 平成 18 年（独）日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（～平成 19 年）  
 平成 18 年（社）日本技術士会 技術士試験委員（～平成 25 年）  
 平成 18 年（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構 基礎的研究審査委員会委員（～平成 24 年）  
 平成 19 年（社）日本技術士会技術士試験委員（～平成 24 年）  
 平成 20 年 日本学術会議 会員（～平成 26 年）  
 平成 20 年 日本私立学校振興・共済事業団 私立大学等経常経費補助金特別補助検討委員会専門委員（～平成 22 年）  
 平成 20 年（独）日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（～平成 21 年）

平成 20 年 (独) 日本学術振興会 質の高い大学教育等推進事業委員会専門委員

平成 22 年 (独) 日本学術振興会 大学教育等推進委員会審査部会委員

平成 23 年 日本学術会議 機械工学委員会委員長 (～平成 26 年)

平成 23 年 国土交通省 車両安全対策検討会 (～現在)

平成 24 年 (社) 日本技術士会 修習技術者支援制度検討ワーキンググループ委員 (～平成 25 年)

平成 24 年 (独) 日本学術振興会 大学教育等推進委員会調査部会専門委員 (～平成 25 年)

平成 24 年 (独) 日本学生支援機構 奨学金事業運営協議会委員長 (～平成 28 年)

平成 24 年 日本学術会議 IUTAM 分科会委員長 (～平成 26 年)

平成 24 年 (公) 日揮・実吉奨学会 選考委員会委員 (～現在)

平成 24 年 大阪大学 超域イノベーション博士課程プログラム外部評価委員会委員長 (～現在)

平成 25 年 文部科学省 科学技術・学術審議会臨時委員 (～平成 27 年)

平成 25 年 (独) 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 (～平成 26 年)

平成 25 年 (公) 大学基準協会 大学評価分科会第 3 群主査 (～平成 27 年)

平成 25 年 (独) 大学評価・学位授与機構 「キャンパス・アジア」モニタリング専門委員会委員 (～平成 28 年)

平成 25 年 国立政策研究所 チューニングによる大学教育のグローバル質保証ーテスト問題バンクの取組ーに係わる委員 (～現在)

平成 25 年 国立政策研究所 AHELO 調査結果の分析に関する研究会 (～平成 27 年)

平成 25 年 大阪大学 若手育成委員会委員 (～現在)

平成 25 年 東京大学「グローバル時代の知識と経済」懇談会メンバー (～平成 26 年)

平成 26 年 日本学術会議 連携会員 (～現在)

平成 26 年 (独) 大学評価・学位授与機構 「大学等の研究機関の評価の在り方に関する研究」調査研究協力者 (～平成 27 年)

平成 27 年 文部科学省 科学技術・学術審議会委員 (～現在)

平成 27 年 文部科学省 大学設置分科会工学専門委員会委員

平成 27 年 文部科学省 理工系プロフェッショナル教育推進委託事業 事業委員会委員長 (～平成 29 年)

平成 27 年 (公) 国際科学技術財団日本国際賞審査部門委員会委員 (平成 28 年)

平成 27 年 (独) 科学技術振興機構 SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) アドバイザリーボード委員 (課題「革新的構造材料」) (～現在)

平成 28 年 (独) 大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員

平成 28 年 文部科学省 大学設置分科会工学専門委員会主査  
 平成 28 年 東京大学生産技術研究所革新的シミュレーション研究センター第三者評価委員会委員長（～平成 29 年）  
 平成 28 年 文部科学省・経済産業省 理工系人材育成に関する産学官円卓会議人材需給ワーキンググループ共同座長（～平成 29 年）

2. 所属学会 (学会・協会等の主要な役職を年次を付して記入)

一般社団法人 日本機械学会

平成 8 年～平成 10 年 材料力学部門幹事  
 平成 15 年～平成 16 年 材料力学部門長  
 平成 16 年～平成 18 年 理事  
 平成 23 年～平成 24 年 副会長  
 平成 27 年～平成 28 年 筆頭副会長  
 平成 28 年～平成 29 年 会長

公益社団法人 日本材料学会

平成 12 年～平成 14 年 破壊力学部門委員会委員長  
 平成 16 年～平成 17 年 評議員  
 平成 17 年～平成 18 年 理事， 関東支部長  
 平成 25 年 第 62 期総会・学術講演会実行委員長

公益社団法人 自動車技術会

平成 20 年～平成 22 年 理事・技術会議議長

一般社団法人 日本技術者教育認定機構

平成 21 年～平成 25 年 業務執行理事  
 平成 25 年～平成 29 年 副会長

公益社団法人 関東工学教育協会

平成 25 年～ 理事

公益社団法人 日本工学会

平成 29 年～ 業務執行理事

教 育 の 実 績

1. 担当講義 (担当講義の名称， 大学名， 学部・大学院の別)

東京工業大学 学部

材料力学概論， 固体システム学， 工学モデル論， 変形と振動の力学， 材料力学， 機械材料科学， 固体・構造力学基礎など

東京工業大学 大学院

材料力学特論， 固体力学特論， 先端技術とイノベーション， Advanced Course of Mechanics of Materials, Material Selection for Engineering Design など



## 研 究 の 実 績

### 1. 著書・論文 (主な著書・論文を記入)

#### 著書・訳書

1. S. Aoki, K. Kishimoto, Application of BEM to Galvanic Corrosion and Cathodic Protection; Topics in Boundary Element Research Vol.7 (Electrical Engineering Applications), Springer-Verlag, 1990.
2. 岸本喜久雄 (分担), 界面の力学, 結城良治編著, 培風館, 1993.
3. K. Kishimoto, Case Studies of "Electronic Packaging Failure, Interfacial and Nanoscale Failure, (分担), Elsevier, 2003.
4. 岸本喜久雄 (監訳), 材料の疲労, S. Suresh 著, 培風館, 2005.
5. 岸本喜久雄 (分担), 材料強度学, 日本材料学会編, 日本材料学会, 2005.

#### 総説

1. 坂田勝, 岸本喜久雄, 衝撃破壊と破壊靱性, 材料 34-386, (1985) 362-1362.
2. M. Sakata, S. Aoki, K. Kishimoto, Measurement of the impact fracture toughness of ceramic materials at elevated temperatures; Fracture Mechanics (Current Japanese Materials Research Vol.8), Elsevier Applied Science, (1991) 65-82.
3. K. Kishimoto, Wavelet analysis of dispersive stress waves, JSME International Journal Series A, 38, (1995) 416-424.
4. 岸本喜久雄, 接着・接合界面の破壊力学, 材料, 49-2, (2000) 238-244.
5. 岸本喜久雄, 界面き裂の支配力学パラメータと界面強度評価試験(総説), 日本接着学会誌, 43-11, (2007) 31-39.

#### 原著論文

1. K. Kishimoto, S. Aoki, M. Sakata, On the path-independent integral- $J^*$ , Engng. Fract. Mech., 13 (1980) 841-850.
2. K. Kishimoto, S. Aoki, M. Sakata, Use of  $J^*$ -integral in dynamic analysis of cracked linear viscoelastic solids by finite element method, Trans.ASME J. Appl. Mech. 49 (1982) 75-80.
3. K. Kishimoto, W.O. Soboyejo, R.A. Smith and J.F. Knott, A numerical investigation of the interaction and coalescence of twin coplanar semi-elliptical fatigue cracks, Int. J Fatigue, 11 (1989) 91-96.
4. F. Ma, K. Kishimoto, A continuum interface debonding model and application to matrix cracking of composites; JSME International Journal Series A, 39-4, (1996) 496-507.
5. K. Kishimoto, M. Notomi, S. Kadota, T. Shibuya, N. Kawamura, T. Kawakami, Mixed-mode fracture behavior of silica particulate filled epoxide resin, STP 1359, American Society for Testing and Materials, (1999) 129-142.

6. K. Kishimoto, H. Inoue and T. Shibuya, Dynamic force calibration for measuring impact fracture toughness using the Charpy testing machine, *Pendulum Impact Testing: A Century of Progress*, STP 1380, American Society for Testing and Materials, (2000) 253-266.
7. M. Omiya, K. Kishimoto, W. Yang, Interface debonding model and its application to the mixed mode interface fracture toughness, *International Journal of Damage Mechanics*, 11-3 (2002) 263-286.
8. C. Hwu, M. Omiya, K. Kishimoto, A Key Matrix N for the stress singularity of the anisotropic elastic composite wedges, *JSME International Journal, Series A*, 46-1 (2003) 40-50.
9. F. Jin, Z. Wang and K. Kishimoto, Basic properties of Rayleigh surface wave propagation along curved surfaces, *International Journal of Engineering Science*, 43 (2005) 250-261.
10. Y.Z Wang, F.M. Li, K. Kishimoto, Scale effects on thermal buckling properties of carbon nanotube. *Physics Letters A* 374 (2010) 4890–4893.

#### 招待講演

1. K. Kishimoto, Effect of intermetallic compound layer development on mechanical strength of 63Sn-37Pb solder joints, *Proc. 3rd Int. Conf. Micro Materials*, Berlin, 2000年4月
2. K. Kishimoto, Fracture behaviors of advanced polymer composites under mixed mode loading, *FEOFS2000*, Pohang, 2000年8月
3. K. Kishimoto, Fracture mechanics of bonding interface – A cohesive zone model, *E-MRS Spring Meeting*, Strasbourg, 2001年6月
4. K. Kishimoto, A mechanical reliability assessment of solder joints, *EMAP2001*, Jeju Island, 2001年11月.
5. K. Kishimoto, Interfacial fracture mechanics and cohesive zone model, *APCFS2004*, Jeju Island, 2004年10月
6. K. Kishimoto, Evaluation of the interfacial strength by peeling & indentation method, *Joint-Symposium on Mechanics of Advanced Materials & Structures (JSMAMS)*, August.11-15, Harbin, China, 2010年8月
7. K. Kishimoto, Yi-Ze Wang, Progress of acoustic waves in piezoelectric and nano structures, *The 2010 Symposium on Piezoelectricity, Acoustic Waves, and Device Applications*, (SPAWDA 2010), Xiamen, China, 2010年10月.
8. K. Kishimoto, Interfacial mechanics for multi-material structures, *International Conference on Damage Assessment of Structures, DAMAS2017*, Kitakyuushu city, 2017年7月.

受 賞 等

受賞・表彰等 (特記すべき事項を年次を付して記入)

- 昭和 55 年 日本機械学会論文賞
- 平成 5 年 防食腐食協会論文賞
- 平成 12 年 日本機械学会論文賞
- 平成 13 年 日本非破壊検査協会奨励賞
- 平成 14 年 日本機械学会材料力学部門国際交流表彰
- 平成 15 年 日本機械学会フェロー
- 平成 18 年 日本材料学会学術貢献賞
- 平成 19 年 米国機械学会フェロー
- 平成 19 年 日本機械学会材料力学部門業績賞
- 平成 25 年 自動車技術会フェロー
- 平成 26 年 日本機械学会材料力学部門貢献賞
- 平成 28 年 日本機械学会材料力学部門功績賞
- 平成 29 年 自動車技術会創立 70 周年記念表彰

そ の 他 特 記 す べ き 事 項

主な教育プロジェクト活動

1. 派遣型高度人材育成協同プラン「産学協同による実践的 P B L 教育プログラム」(平成 17 年～平成 23 年)
2. 特色ある大学教育支援プログラム「工学教育プログラムの継続的進化～世界最高水準の工学教育の実現を目指して」(平成 19 年～平成 22 年)
3. 世界展開力強化事業「グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク」(平成 23 年～平成 28 年)

主な国際活動

1. Far East and Oceanic Fracture Society (FEOFS) 事務局長 (平成 13 年～平成 15 年)
2. 経済協力開発機構(OECD)「高等教育における学習成果調査 (Assessment of Higher Education Learning Outcomes, AHELO)」工学分野専門家委員 (平成 21 年～平成 24 年)
3. 国際理論応用力学連合 General Assembly 委員 (平成 23 年～現在)
4. APEC エンジニア & IPEA 審査委員会委員長 (平成 26 年～現在)

上記のとおり相違ありません。

平成 29 年 7 月 18 日

氏名 (自署)

岸本喜久雄